

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 分析・改善方策

学校経営目標に基づいた目標管理が具体的に行えるよう、全ての部署が校長の定めた本年度の学校経営目標「『本物品質』未来に向かう倉商ブランド 確かな学力と人間力を育成し、地域と共に歩む学校」の達成に向け、事前に「数字で見る倉商」と名付けた校内の様々な数値データをまとめた資料および学校評価アンケートの結果をもとに現状分析を行い、問題点や改善点を明示した。その分析を踏まえ、学校経営目標に基づいて各部、室、科、学年の目標やその達成基準、具体的取組を可視化するとともに、共通理解を図った。それらを踏まえ、直面する課題解決のために各部署が協力して教育活動に取り組んだ。

「最終達成状況と評価」においては、評価の根拠を可能な限り数値化して経年比較を行うと共に、校内企画委員会、職員会議において年間総括を行い、一年間の取組の成果と課題を全教職員で共有した。新型コロナウイルス感染症による行動制限にあわせながら慎重な検討や工夫を重ね、前年度より充実したものにできた結果を踏まえ、「今後の課題」として新たな取組や改善すべき点を明確にし、次年度に向けての円滑な目標設定とその実施、改善が担当部署ごとに行えるように配慮した。

2 学校関係者評価委員名

河野 秀樹（本校元PTA会長）

前岡 修允（倉敷観光コンベンションビューロー課長）

時任 英人（倉敷芸術科学大学 名誉教授）

内田 太（岡山商科大学 講師、本校元校長）

3 学校関係者評価

計3回学校関係者評価委員会の席上において、各委員から標記学校経営目標の取組に対して活発な意見や改善案を頂いた。以下にその内容を示す。

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による様々な制限がある中で、学校全体で教育活動に取り組んでいることを高く評価していただいた。半面、さらなる多忙化について、「生徒に寄り添うためには教員に余裕がなければならない。」「やるが増える一方となる可能性があり、たくさんある業務の中で、ポイントを絞って一つひとつやっていくべきだ。」「多様化する生徒に対応するために、教員間で情報を共有して全員で解決していくべきだ。」とのアドバイスを頂いた。また、学校自己評価の中でも評価の低い生徒の学習に関する項目については、「学校生活全体を充実させるよう指導していけばおのずと解決していく。」「教えずぎると生徒は家庭学習等、主体的な学習をしなくなる。」等の御意見を頂いた。一方で、全商3種目1級合格全国1位の達成については、「商業科教員の力はもちろん、担任や共通教科教員の協力おかげであり、それが倉商の力である。」と高く評価を頂いた。

教員の働き方については、「部活動における生徒、保護者との関係性が複雑化しており、近年メディアで報じられているようなトラブルが心配である。現代社会では教員は弱い立場でモチベーションが下がる傾向にあるが、自分の思いを積極的に発信して理解を得た上で指導していくべきだ。」「学校事故については、教員が個人責任を問われる時代が来ている。保険に加入するなど自分を守る手段を講じるべきだ。教務室について、教員個々の机という見方でなく、物を置く場所と作業する場所を分ければ、空間が生まれ、働きやすい環境になる。」との助言も頂いた。いずれも外部からの目で見えた有用なご意見であり、参考にすべき点が多々あった。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- ・今年度の学校経営目標に基づいた取組の成果と課題を職員に周知し、さらなる改善を目指して設定された目標の意義や目的を職員間で共有する。また、コロナによる制限緩和にあわせ予測されるさらなる多忙化に対処することで、教職員の身体的・精神的な負担軽減につなげ、適切な勤務状況、働き方改革の視点に立った勤務の在り方を実践するよう努める。

- ・生徒が主体的に学ぶことができるよう授業改善や評価方法についての研究を行い、外部でも高い評価を得ているPBLの成果を全校生徒に浸透させるため、教員側のスキル向上を目指す。また、社会情勢を見ながら、生徒の多様性を認め、生徒に寄り添った指導ができるよう組織的に行動できる教員集団の形成を目指す。